

BASF

We create chemistry

果樹用殺菌剤

セルカディス® D

Powered by Xemium® Active フロアブル

心強い組み合わせが 見つかりました。

適用拡大

新規作物の追加

- かんきつ：そうか病、黒点病、灰色かび病
- うめ：黒星病、すす斑病

使用方法の変更

- りんごの希釈倍数：「1000～1500倍」に変更
- ネクタリンのフルキサピロキサドを含む農薬の
総使用回数：「3回以内」に変更

(2023年12月20日の拡大登録内容より抜粋)



使用前によく振る



®=BASF社の登録商標

セルカディス® Dフロアブル

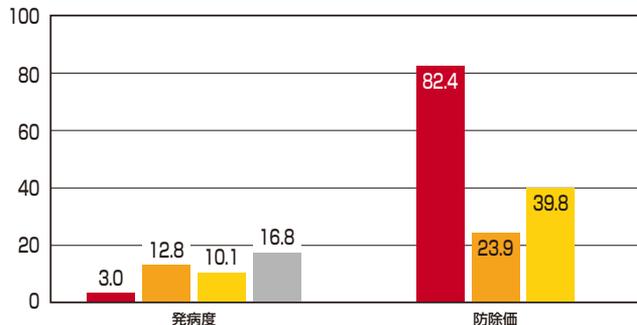
有効成分：ジチアノン・・・42.0%
ゼミウム®(フルキサピロキサド)・・・4.7%
毒性：医薬用外劇物

特長

- セルカディス®DフロアブルはSDHI剤の「ゼミウム®」と、多作用点殺菌剤「ジチアノン」の混合剤です。
- 作用の異なる2成分の混合剤であり耐性菌管理にも有効です。
- ゼミウム®は高い浸透性を持ち、本混合剤は優れた残効性と耐雨性を有します。
- 安定した予防効果と優れた治療的効果で主要病害をはじめ幅広い病害に高い効果を発揮します。

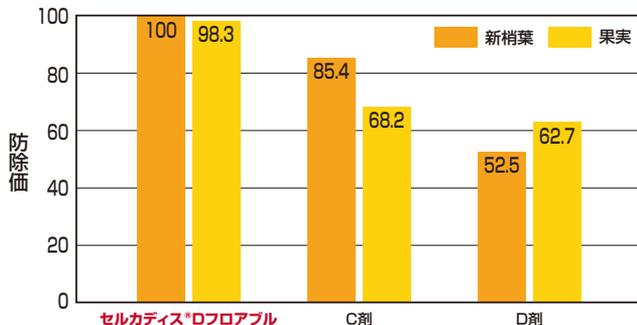
試験事例*

かんきつ 黒点病 2023年 長崎県農林技術開発センター



<試験方法概要>
品 種：岩崎早生17年生 散布水量：6ℓ/1樹
試験区制：1区1樹、3反復 処 理 日：4月28日(落弁期) 調査 日：6月9日
発生状況：中発生

りんご 黒星病 2018年 青森県植物防疫協会



<試験方法概要>
品 種：ふじ 発生状況：多発生
試験区制：1区3樹、反復なし 散布水量：約300ℓ/10a
無処理の発生状況： 処 理 日：5月2日、12日、22日、6月2日
新梢葉 発病率 51.9% 発病度 33.5 調 査 日：6月18日
果 実 発病率 96.1% ※DMIおよびQol耐性菌が分布する圃場での試験

*効果を確認するための試験では本剤の登録上の使用回数を上回る場合があります。使用にあたっては本剤の使用回数の範囲でご使用ください。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジチアノンを含む農薬の総使用回数	フルキサピロキサドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	そうか病、黒点病、灰色かび病	1000~1500倍	200~700ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
うめ	黒星病、すす斑病	1500倍		収穫14日前まで	2回以内		2回以内	
りんご	モニリア病、黒星病、斑点落葉病、黒点病、褐斑病、うどんこ病、赤星病、炭疽病、輪紋病	1000~1500倍		収穫60日前まで	3回以内		3回以内	
なし	赤星病、黒斑病、黒星病、輪紋病、うどんこ病、炭疽病	1500倍		収穫7日前まで	4回以内		5回以内	
もも	灰星病、黒星病、ホモブシス腐敗病			2回以内	4回以内			
ネクタリン	縮葉病、せん孔細菌病			2回以内	2回以内			

△効果・薬害等の注意

- 使用に当たっては容器をよく振ってください。
- 使用量に合わせて薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけてください。
- かんきつに使用する場合は次のことに注意してください。
 - ・開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。また開花期以降に本剤を使用する場合には、マシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけてください。
 - ・夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
 - ・収穫後長期間貯蔵する中晩相に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので、散布をさけてください。
- りんごの展葉後に降霜があった場合、本剤を開花中に使用すると花弁に薬害を生じるおそれがあるため散布をさけてください。
- ハウス栽培のなしに対しては、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- 機能性展着剤(アプローチBIなど)の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- 蚤に対して影響があるので、周辺の農薬にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので散布液調整時には保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。
- 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
- 魚毒性・・・水産動物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整し、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管・・・密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。カギをかけてください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2024年2月の知見に基づいて作成されています。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp>

詳細はWEBでも
ご覧いただけます。



BASF-0014
202402